

一人ひとりの成長をめざして!



ドンマイ、ドンマイ。毎週日曜日、大鷹沢小学校のグラウンドには、子供たちの元気な声が響いています。そんな楽しい、そしてチームワークを大切にしている大鷹沢少年野球クラブは、結成してから10年がたちました。この10年の間で、たくさんの卒業生たちは、野球の楽しさや奥深さ、そして何よりもスポーツを通して、あいさつの大切さを学び成長したことでしょう。

現在クラブには、大鷹沢小の児童14名が所属しています。監督、コーチの指導のもと、クラブ員たちは一試合、一試合を全力で戦っています。

少しでも野球に興味のある人、ぜひ声をかけてください。みんな待っています。入会希望の方は、親の会長（高橋 ☎24-5474）まで連絡ください。

市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0257白石市宇理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

高橋辰男選

花吹雪水に流され旅立ちぬ私もおなじ遠くへ
行きたい 齋藤タカ子
二十日ぶり恵みの雨の有難さ野菜の姿しやん
となりたる 岩松 貞子
耕せし土をあさりて虫拾う二羽のせきれい吾
にまつわる 川村 静恵
これ以上生かさないうと言つ母の動かぬ手足
たださすりけり 大庭 良子
さわやかな風を受けつつ草引くに吾の手に散
らうだんの花 太田 敏子
漸くに螢の光見つけたり夕闇迫る流れのほと
り 八島 三郎
梅雨入りの漸く今朝は晴れ渡り木々の緑葉眩
しく光る 高子うこん
連休に皆出でて留守居する吾に色とりどりの
チューリップ咲く 高野 伝
前庭に咲きしドウダンふさふさと薄紅の花風
に揺れる 八嶋 正子
山峡をつなぐたどるバス旅行萌えし若葉の
トンネル続く 阿部みさ子
【評】一首目。現実からの逃避願望は誰でも持
つことがある。流れに散った桜の花びらの
ように。二首目。通俗語「しゃん」が意外に
新鮮で全体を引き立てた。作者もしゃんと
なったと思う。三首目。すぐそばまで来るが、
もちろん追ったりはしない。人と小鳥の無言
の交流。

俳壇

遠藤秋尾選

スリッパも涼しきものに替へにけり 山家 弘子
朝露のまだ乳色や閑古鳥 佐藤 周子
更衣してそよ風を纏ひ着る 日下 文
燕飛び庭一瞬の風立ちぬ 高橋 正男
すがるもの欲し長芋の蔓泳ぐ 川村 静恵

柳壇

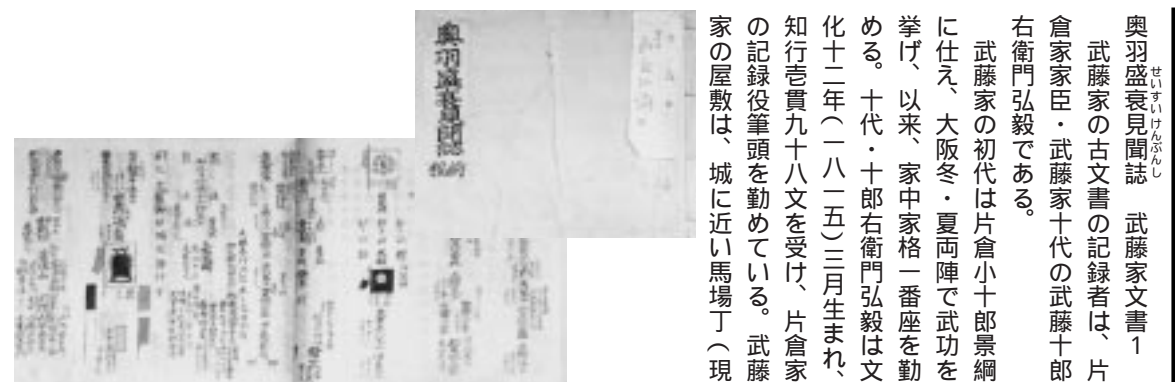
山田風流選

【評】一句目。やまと夏が来た。スリッパまで
も涼しい色を選んでみた。主婦ならではの心
配りを句に。二句目。カツコウが朝早くから
鳴く。外はもやが立ちこめて乳白色の世界。
薄ぼんやりと朝の景色が幻のようだ。三句目。
冬物から夏物に替えることを更衣という。着
物を替えて外に出ると、そよ風が心地よい。
さわやかな風までまとい着た感じである。中
一鈴木君の句も初夏の風が気持ちよい。俳句
が素直で良い句になった。

梅雨どきの太陽のよう好きな人 平岡 大恵
人よりも空気を運ぶ過疎のバス 四電 英夫
順風満帆苦勞梯子を忘れさせ 一條 芳子
回り道私の人生悔はなし 米沢 礼子
貸した金また人情にほだされる 草野 清
失意の日雨は優しい友となる 大野 修一
この前も同じ公約してたつけ 大庭 良子
孫を抱き玄孫も抱いてポランディア 角張 洋子
紅うすく刷いて待つてる涙 北 ちづる
初夏の街若さふりまく三三三 佐藤 武雄

【評】一句目。評の必要がないほど好きな人へ
の思いが表現されている。まぶし過ぎてアパ
タとエクボを見間違えるように。二句目。空
気を運んでも収入にならず、やがて廃止の運
命をたどる。過疎のバス廃止されると乗り
たがり。三・四句目。十七文字で一冊の自分
史を書いたようなもの。終わりよければすべ
てよし、お幸せに。今月号は佳句が多く、ま
さに人間を風刺した川柳でした。

白石の古文書④



奥羽盛衰見聞誌 武藤家文書1
武藤家の古文書の記録者は、片
倉家臣・武藤家十代の武藤十郎
右衛門弘毅である。
武藤家の初代は片倉小十郎景綱
に仕え、大坂冬・夏両陣で武功を
挙げ、以来、家中家格一番座を勤
める。十代・十郎右衛門弘毅は文
化十二年(一八一五)三月生まれ、
知行壹貫九十八文を受け、片倉家
の記録役筆頭を勤めている。武藤
家の屋敷は、城に近い馬場丁(現
在はない)の北側(現白石女子高
等学校校庭西端の北)にあった。
明治三十八年二月、九十一歳の長
寿を全うして、傑山寺に葬られた。
生来文学に長じ、絵画の才にも
優れ、数々の公式記録や絵巻物な
どを残している。中でも、維新時
の東北全域の動乱・盛衰の様相
や、片倉家臣たちが開拓の困苦
と戦いながら、新しい白石村を建
設する姿を記録した『奥羽盛衰見
聞誌』は貴重である。
見聞誌は前編・後編の二冊から
なり、縦十四・二cm、横十八cmの黄
表紙袋綴で、前編は百三十二丁・
後編は八十九丁の横本である。
前編は、慶応三年(一八六七)
徳川慶喜卿大政返上將軍辞職から
説き起こし、奥羽越列藩同盟の成
立、官軍への抗戦と敗退など東北
全域の盛衰を記し、世良修蔵暗殺
のきっかけとなった「奥羽皆敵」
などの書簡で終わっている。後編
は、片倉家臣団の北海道開拓の
記録や諸官庁あての嘆願書、白石
城売却の理由などが詳細に記され
ている。
本書は、一部刈田郡誌に、全文
は白石市史に所収されている。
(白石市図書館所蔵)

国際コーナー International Corner



6月30日から7月7日まで、姉妹都市ハースト
ビルからグリーンリース使節団が来白しました。
今年のグループは男の子3人、女の子5人と引率
者2人でした。白石滞在中、日本を初めて訪れた
子供たちはホストファミリーの家に泊まって、2
日間体験入学をしました。日本の中学校の印象を
聞きました...

6月30日から7月7日まで、姉妹都市ハースト
ビルからグリーンリース使節団が来白しました。
今年のグループは男の子3人、女の子5人と引率
者2人でした。白石滞在中、日本を初めて訪れた
子供たちはホストファミリーの家に泊まって、2
日間体験入学をしました。日本の中学校の印象を
聞きました...

日本の学校でびっくりしたことがいっぱいあ
ったそうです。例えば、学校で靴を脱ぐこと、生徒
が掃除をすることなどですが、みんなが一番驚い
たことは学校の給食でした！今回の子供たちが通
っているオーストラリアの学校では、みんな弁当
を持って、校庭で友達と一緒に食べるそうです。
だから、みんなが教室で同じものを食べる日本の
給食には驚きでした。しかし、1日はカレーライ
スだったので、喜んでいました！
学校の授業はすべて日本語なので、日本語をあ
まり話せない子供たちにとって、ちょっと大変で
した。それで、みんな英語の授業を楽しみにして、
べらべらの英語でクラスメートのみんなを感動さ



法被姿でパーティーを楽しむグリーンリースの皆さん
(スパッシュランドにて)